緑雨亭

私のまちの
隠れた名建築

第 10 回
緑雨亭
Ryokuutei

三重県鈴鹿市神戸

黒野晶大
新建愛知支部（鈴鹿市在住）

私の実家のまわりには、友人のうどん屋、おいしいパン・ケーキ・アイス・和菓子屋、素敵な洋服店等が徒歩圏内にあります。その中心に龍光寺があります。京都の東福寺派に属する禅寺で、神戸（かんべ）の寝釈迦として有名です。その境内にSUZUKA文化塾文庫・五木寛之文庫の建物があり、その2階の1番奥にあるのが「緑雨亭」です。神戸出身の斎藤緑雨（1867―1904）は明治の小説家・評論家・随筆家で文壇の鬼才といわれました。緑雨の生まれた四畳半・八畳間を、お寺から50mのところにあった生家の古材を利用して復元したのが緑雨亭です。緑雨を著名にしたのは風刺的批評文で、笑いと皮肉をもって同時代文士の作品を評論しました。「按ずるに筆は一本也、箸は二本也、衆寡敵せずと知るべし」と自らの貧しさを笑いました。この時代、女性開放の新気風がキリスト教徒の指導などによっておこっていて、緑雨は鴎外・露伴らとともに樋口一葉「たけくらべ」を賞賛しました。

建築の外観は、白漆喰と柱梁の黒が映え、周りの樹木が安らぐ陰影をつくります。1階は児童館（子の健全育成の場・学童・神戸みらい塾）で、木素地の柱梁と天井・腰壁板、白漆喰とが合わさって楽しそうに、やわらかく子どもたちを包んでいます。2階に進むと文庫があり、1階とうってかわって強烈でエネルギッシュな深紅壁で囲まれています。文学や美術・歴史など計2600冊ほどあり、誰でも無料で利用できます。ふだん着で集い語り合う場所を提供しています。その奥に「緑雨亭」の和室2室があります。深紅・緑（市松襖・畳）・黒塗柱が厳粛で華麗な雰囲気をかもしだしています。ここには緑雨の書簡やハガキなどが展示してあります。こうしてみると、2階奥の「緑雨亭」から深紅のエネルギーが中心から周辺へと広がっているように感じます。色彩を変化させた空間が徐々に広がり、子どもたちにも伝わって、境内の建築や緑や青空につながって、お寺全体の一体感があります。また、お寺の周りには男女共同参画センターや神戸の古い町並みが残っています。

建築をとりまく、宗教（理想）と色彩・そこから感じる心情（理念）がつながった、私のまちの名建築です。

SUZUKA文化塾文庫

児童館（神戸みらい塾）

外観（龍光寺境内）